

立教女学院小学校

〒168-8616 東京都杉並区久我山4-29-60 TEL 03-3334-5102(代) <http://es.rikkyojogakuin.ac.jp/>
 【交通】京王井の頭線三鷹台駅

【理事長】若林 一美

【校長】佐野 新生

光と風と緑の中の校舎で、
のびのび始まる学校生活

立教女学院の教育方針

キリスト教の信仰に基づき、宗教的信念と情操を養い、併せて女性にふさわしい人格、教養を形成することを教育の念願としています。

何をすべきか考え、実践できる人間に

毎朝の礼拝や週1回の聖書の授業、あるいは教師と児童との交わりを通して、児童が神の存在を確信し、自分が何をすべきかを考え、それを実践できる人になるように教育を行っています。

- 健康で明るい子**：全て人は、神様に愛されて造られました。与えられた賜物を十分に機能させることが必要です。体と心の健康と、朗らかな明るさがその土台です。
- すすんで行動する子**：意欲と自発性が大切です。人との関わりの中で、よく考え、よく学ぶことが必要です。すすんで自分の力を発揮し、行動できる子どもになりたいです。
- まわりの人を大切にする子**：人をやさしい心で思いやれることが大切です。自分の事のように相手を覚え、手を差し伸べ合える子どもになりたいです。

特色あふれる立教女学院の授業

学級担任制による授業●学級担任制を採り、学級担任はそれぞれの学級経営を主体として、国語、算数、社会を受け持ち高学年の理科、音楽、体育、図工、家庭、聖書および英語はそれぞれの専科の教師が授業を担当しています。

英語学習●ゲームや歌で、英語に親しみます。小学時より英語の聞く力、話す力を養うことに重点を置いています。

テレビとラジオの活用●授業の一部として、ラジオやテレビによる校内放送も採り入れています。校内テレビ放送やビデオによる放送は、授業と生活指導の両面に効果を挙げています。

上級学校に進むには

卒業生（希望者）は、本学院中学校・高等学校へ進学し、一貫教育を受けることができます。2010年4月中学1年入学者より、受入総数121名で、一定の要件を満たす者は立教大学に推薦入学することができます。

創業者ウィリアムズ師

立教女学院はアメリカ聖公会から日本に派遣されて来た、宣教師ウィリアムズ師によって創立されました。彼は日本の人々がイエス・キリストにあらわれた神の心を知り、真の人生を生きるためにどんなことでもしようと決意していました。その決意の一つに、女子に対する教育がありました。人間がすべて神の前では等しい意味と価値を持っているのだということ、女子教育を始めることにより証したのです。彼は全生涯を日本の宣教と教育に献げ“道を伝えて己を伝えず”と称賛されるほどのまれにみる高德の師でした。同師の信仰と道徳は本学院の伝統の中に今日も脈々と生き続けています。



沿革

明治10年、Bishop Channing M. Williamsにより、立教女学院が創設される。明治41年、文部大臣の認可を受けて高等女学校となる。関東大震災により校舎が焼失したが、昭和5年に現在の高等学校校舎が完成。その翌年小学校が併設された。平成14年、新校舎完成。

2017年度募集要項

募集人員：女子72人（内部進学者を含む）

出願期間：10月1日・2日の消印のみ有効
 入学試験日：11月3日・4日 両日

合格発表：11月6日

【かかる費用（予定）】

入学金：300,000円

施設費：300,000円

藤の会（保護者の会）入会金：10,000円

(1) 学費（月額）

・授業料 49,000円

・保健冷暖房費 2,000円

・維持費 3,000円

(2) 校納金（月額）

・藤の会費 1,500円

・児童費（教材・ノート・校外授業バス代等）

2,100円

・給食費 10,100円

併設中学進学状況

◆立教女学院中学校

※原則として希望者全員が進学可能

データパック

◆児童数432人／教員数22人

◆16年度応募者数：女子310人

◆合格者数：72人

【併設校】

○立教女学院短期大学附属幼稚園 天使園

○立教女学院中学校・高等学校

○立教女学院短期大学